



ざりゅうせいぐん ペルセウス座流星群とは

天文の世界での夏の風物詩といえは、何と
言っても「ペルセウス座流星群」ではないでし
ょうか。8月の半ばに毎年^{かなら}必ず多くの流星が
流れるので、まず期待を裏切ることのない
代表的な流星群^{だいひょうてき}です。今年のペルセウス座
流星群で最も多くの流星^{しゅつげん}が出現するのは、8
月13日の明け方と予想されます。これを極大^{きょくだい}
といいます。8月12日の夜遅く^{おそ}といった方が
良いかもしれません。天候^{てんこう}の条件^{じょうけん}が良ければ、
1人の観測者^{かんそくしゃ}が1時間^{かんさつ}観察すると、70個もの流星^こを数えることができるはず^{はず}です。



ペルセウス座とペルセウス座流星群の放射点
アストロアーツ社 ステラナビゲーター10で作成

ペルセウス座流星群は、ペルセウス座のある一点から飛び出すように見えます。この点の
ことを放射点^{ほうしゃてん}といい、放射点のある星座の名前からペルセウス座流星群と呼ばれてきまし
た。放射点の位置^{いち}と、空のどのあたりに流星が流れるかはあまり関係^{かんけい}がありません。つまり流
星は空のどこでもほぼ同じ頻度^{ひんど}で現れます。観察する場合も、ペルセウス座の方向を見る
必要^{ひつよう}はないということです。ただし、放射点が地平線の上にないと流星は現れません。

今年のペルセウス座流星群は、天文雑誌^{ざっし}や新聞などで、「最良^{さいりょう}の条件^{じょうけん}」とされています。
これは、極大の日の月が、流星観測^{さまた}の妨げにならないことを指しています。月明かりがある
と、流星が見難^{にく}くなります。ところが今年の8月13日は月齢4と、早い時刻^{げつれい}に月は沈^{しず}んでしま
います。月は全く邪魔^{まった}にならないということで、「最良^{さいりょう}の条件^{じょうけん}」ということができます。

この日、放射点が十分に昇^{のぼ}るのは、午後10時頃^{ころ}です。それから明け方まで、多くの流れ星
を堪能^{たんのう}してみてください。今のうちに手帳の8月12日のところに印^{しるし}をつけておきましょう。

2021年7月12日記（解説員：田部 一志）